

## 平成26年度

### 京都府学力診断テスト（中学2年生）の結果の概要について

平成27年 1月 15日  
学 校 教 育 課

- |              |                                            |
|--------------|--------------------------------------------|
| 1 実施日        | 平成26年10月22日（水）                             |
| 2 実施対象       | 府内中学校（96校）特別支援学校（4校）                       |
| 3 実施教科及び受検者数 | 国語 10,195人 数学 10,206人 英語 10,209人           |
| 4 問題内容及び問題数  | (1) 基礎・基本に関する問題・・・20問<br>(2) 活用に関する問題・・・5問 |

平成26年度京都府学力診断テスト（中学2年生）を実施しました。  
学力調査と質問紙調査の結果について概要をお知らせします。

#### ■全体的な学力は、ほぼ定着している。

- 国語 ◆「話すこと・聞くこと」の領域は、ほぼ定着している。  
◆「書くこと」の領域に一部課題がある。
- 数学 ◆「数と式」と「関数」の領域は、ほぼ定着している。  
◆「図形」と「資料の活用」の領域に一部課題がある。
- 英語 ◆「聞くこと」と「読むこと」の領域は、ほぼ定着している。  
◆「書くこと」の領域に一部課題がある。



#### ■家庭での学習習慣についてはやや改善傾向にあるが、依然課題がある。

平日の家庭での学習時間については、2時間以上の生徒の割合は昨年度の中学2年生よりも0.3ポイント増加し、30分未満の生徒の割合は3.1ポイント減少しているが、本調査に回答した生徒の中学1年生4月の時点の回答と比べると2時間以上の生徒の割合は1.1ポイント減少し、30分未満の生徒が10.0ポイント増加しており、依然課題がある。

#### ■規範意識や自尊意識については、やや改善傾向が見られる。

「学校や社会のきまりや規則を守っている」の質問に、「当てはまる」と回答した生徒の割合は、45.7%であり、昨年度より5.0ポイント増加している。

「自分には、よいところがあると思う」の質問に、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合を合わせると59.1%であり、昨年度より3.1ポイント増加している。

#### ■携帯電話やスマートフォンでの通話やメール、ゲームをする時間が増加している。

自分だけの携帯電話やスマートフォンを持っている生徒の割合は63.5%であり、通話やメール、ゲームをほぼ毎日している生徒の割合は64.9%となっており、昨年度より12.8ポイント増加している。（自分だけの携帯電話を持っていない生徒を含む）

#### 改善プラン

### 「包み込まれているという感覚」を実感できる 教育活動を展開し、質の高い学力をはくくむ

#### ■児童生徒の学力向上を小中連携の視点で捉え、9年間を見通した指導を行う。

京都府学力診断テスト(小4・中1・中2)及び全国学力・学習状況調査(小6・中3)の結果から、児童生徒の学力実態や家庭における生活状況等の特徴や課題を把握し、小中で課題を共有し、小中連携の視点で組織的に学力向上に取り組む。

#### ■生徒の学ぶ意欲を引き出し、個に応じた指導の一層の充実を図る等の 授業改善を進める。

質問紙調査結果を生徒の学力と関連付けて分析し、学ぶ意欲を引き出す授業をするとともに、「子どものための京都府少人数教育」の更なる推進を図り、個に応じた指導の一層の充実を図る等、組織的な指導方法の工夫改善に取り組む。

- ◆「指導方法の改善に関する研究協議会」「中学校教育課程京都府研究大会」「京都府学力診断テスト活用講座」を実施

#### ■規範意識や豊かな人間性を育むために、「道徳の時間」の充実や「法やルールに関する教育」を進める。

#### ■すべての中学校で「非行防止教室」を実施する等、生徒が社会のきまりや規則を学習する機会を増やす。

#### ■スマートフォンをはじめとする携帯電話に潜む危険性や家庭でのルール・使い方等について保護者への啓発を進める。

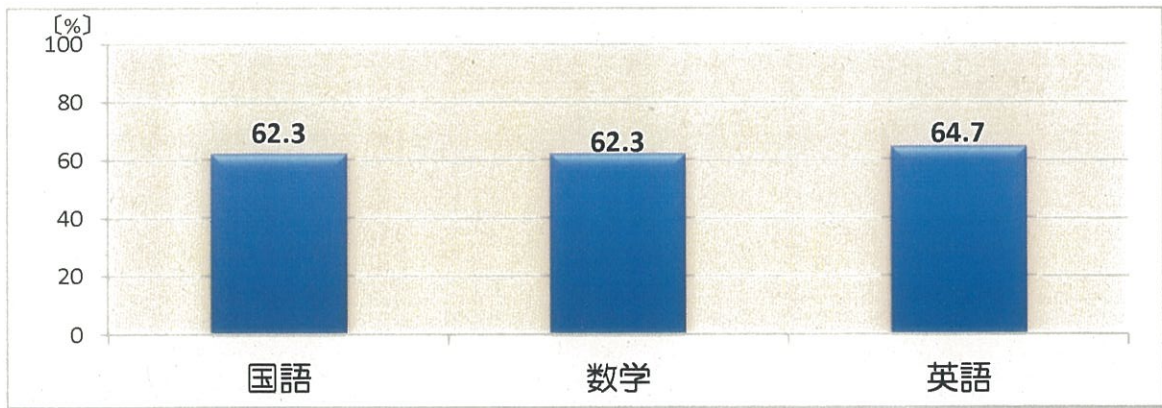
- ◆「保護者のみなさまへ 家庭で話そう！ ～ケータイ利用のルールとマナーについて～」リーフレットを全家庭に配付

担当課	学校教育課
電話	075-414-5831

5 結果の状況（京都府全体）

(1) 教科別

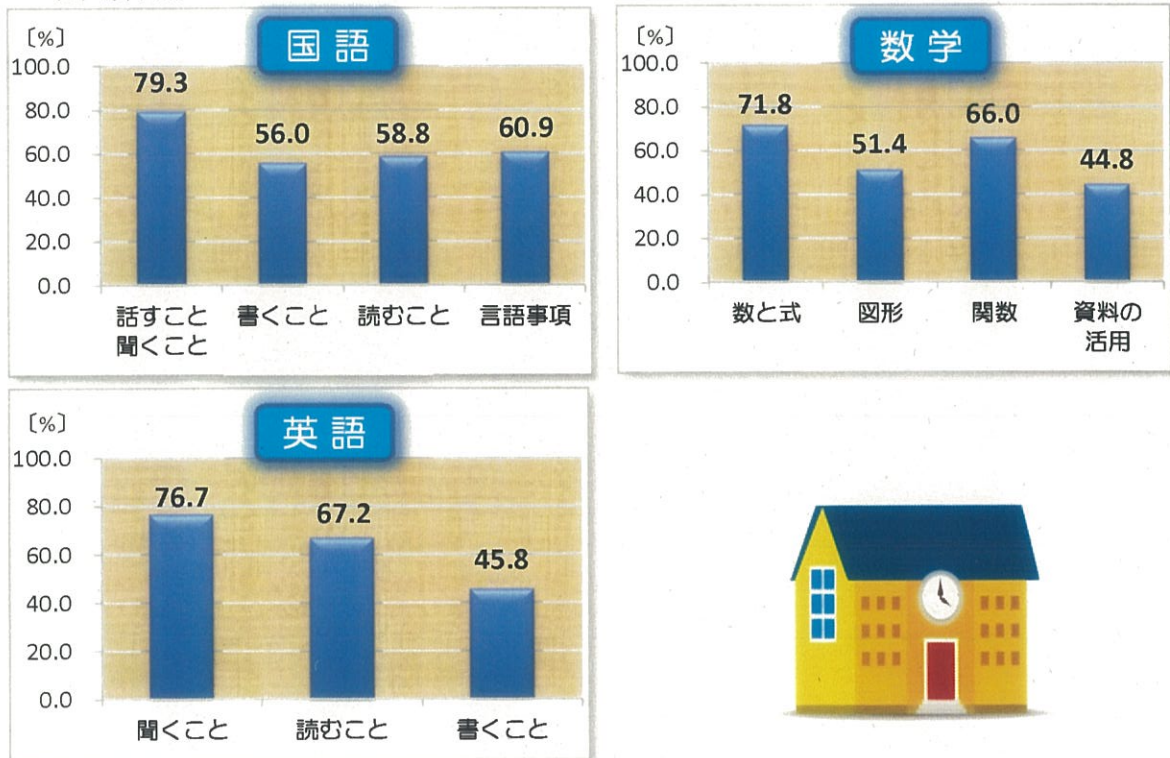
※数値はすべて正答率（100%）



(2) 問題類型別（基礎・基本に関する問題 活用に関する問題）



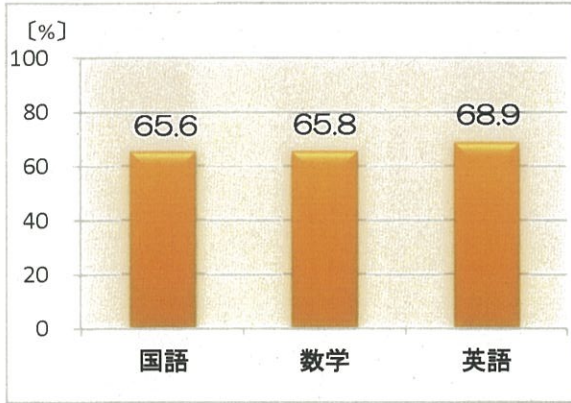
(3) 領域別



(4) 教育局別平均正答率

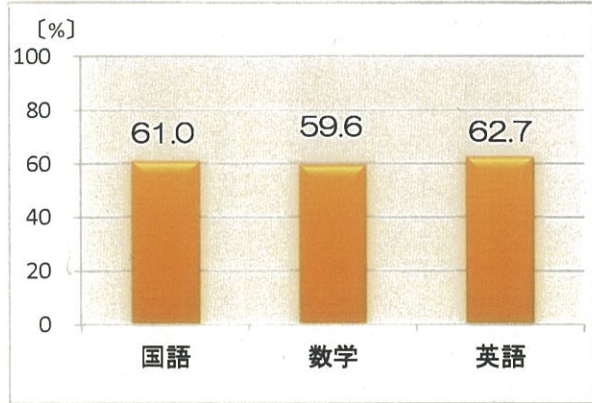
**乙訓**  
(8校)

国語 (1,282人 12.6%)  
数学 (1,282人 12.6%)  
英語 (1,280人 12.5%)



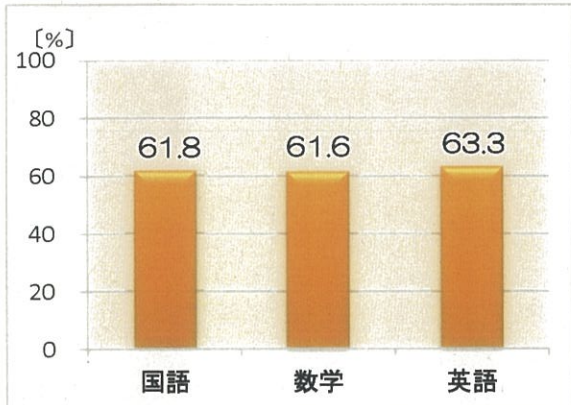
**山城**  
(35校)

国語 (4,750人 46.6%)  
数学 (4,756人 46.6%)  
英語 (4,760人 46.6%)



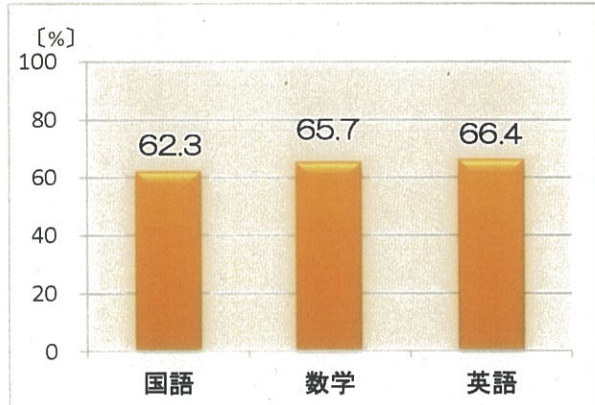
**南丹**  
(15校)

国語 (1,178人 11.6%)  
数学 (1,179人 11.6%)  
英語 (1,179人 11.5%)



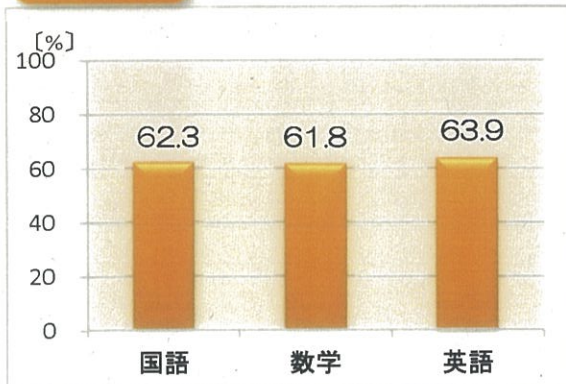
**中丹**  
(22校)

国語 (1,824人 17.9%)  
数学 (1,827人 17.9%)  
英語 (1,828人 17.9%)



**丹後**  
(14校)

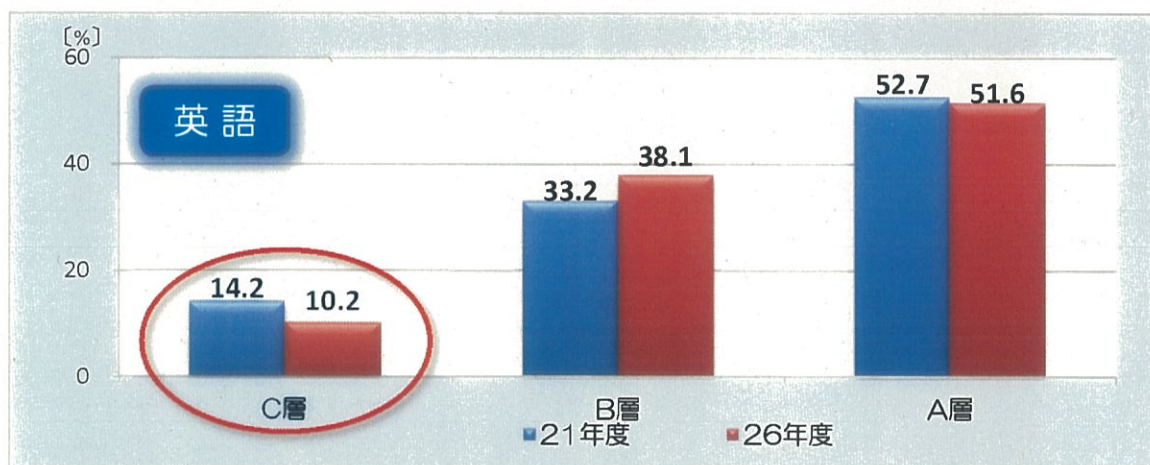
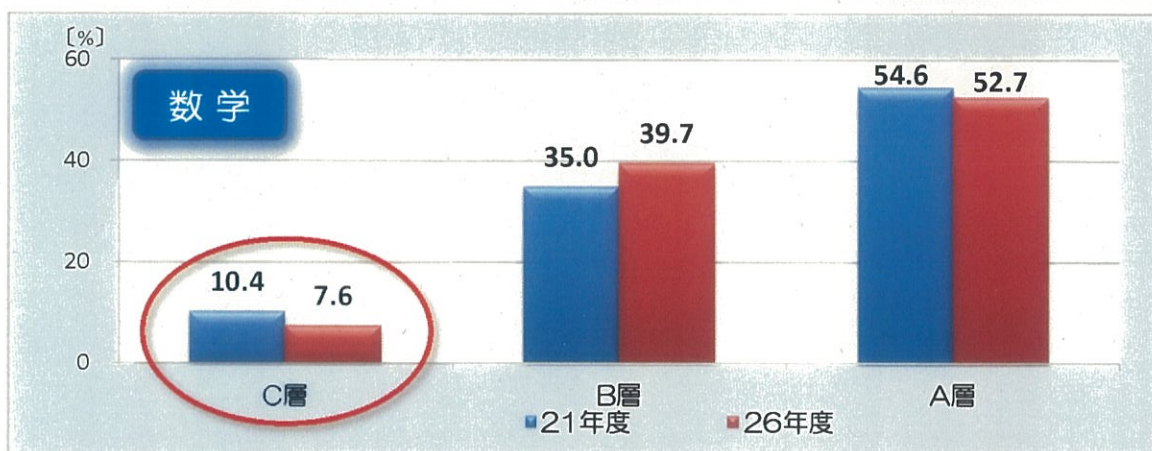
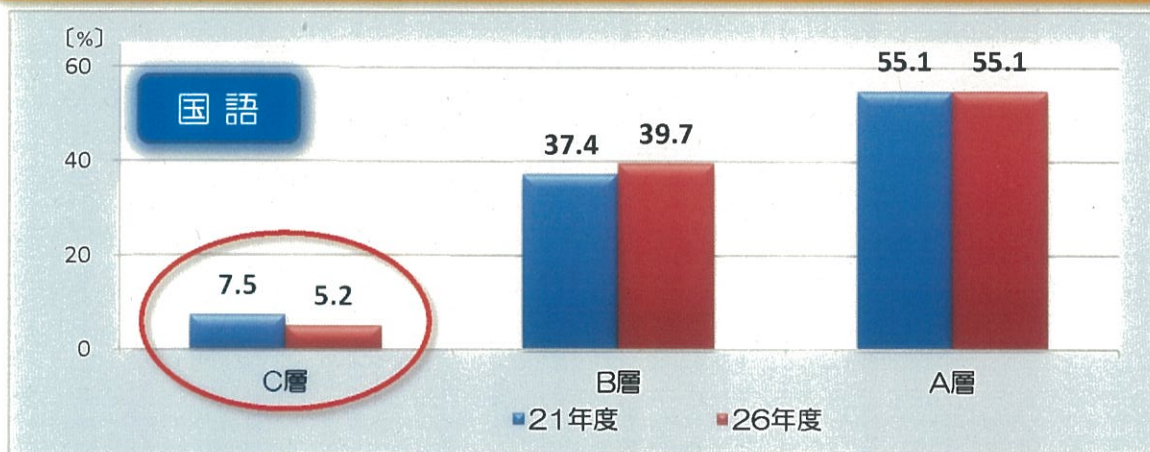
国語 (1,034人 10.1%)  
数学 (1,035人 10.1%)  
英語 (1,035人 10.1%)



( )は、  
(受検者数 府全体の受検者数に占める割合)を表す。

(5) 学力分布の経年比較

中1 振り返り集中学習「ふりスタ」の対象ではなかった平成21年度の中学2年生と、「ふりスタ」の対象となっている平成26年度の中学2年生の結果を比較すると、国語、数学、英語の3教科ともに課題がある学力層（C層）が減少している。



【分析方法】

各教科・各年度の平均正答数以上の生徒をA層とし、平均正答数未満の生徒をB層（上位）、C層（下位）に二分割して分析

（例）平均正答数が16問なら、16問以上がA層、8問以上16問未満がB層、8問未満がC層